

令和2年度第1回小牧市男女共同参画審議会会議録

- 1 日 時：令和2年8月31日（月）午後1時30分～
- 2 場 所：まなび創造館多目的室
- 3 [出席者]
委 員：代田義勝、松田照美、武藤敦子、矢野秀美、伊藤幸子、前田真理子
近藤正司、籠橋幸子、伊熊啓人、廣瀬昌美
事務局：中川教育長、伊藤教育部長、
恒川まなび創造館長、山下まなび創造館事業係長
堀まなび創造館事業主任
長縄自治会支援室長、
(株)サーベイリサーチセンター 長谷川主任
[欠席者]
なし
[傍聴者]
なし
- 4 議 題
 - (1) 小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況（平成31年度実績）について
 - (2) 第4次小牧市男女共同参画基本計画（ハーモニーⅣ）策定に基づく市民意識調査の内容について
- 5 その他

1 開会

[恒川館長]

今日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、令和2年度第1回小牧市男女共同参画審議会を開催いたしたいと思えます。本日の議事進行を務めさせていただきます、まなび創造館の恒川と申します。よろしくお願ひいたします。

本会議につきましては公開となっております、本会議の議事録は情報公開コーナー等にて公開をいたします。

では、初めに教育長の中川より御挨拶させていただきます。

2 挨拶

[中川教育長]

改めまして、こんにちは。教育長の中川でございます。

委員の皆様方におかれましては、この暑さの中、会議に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

また、日頃は男女共同参画推進のために、御指導、御助言等を賜りまして誠にありがとうございます。重ねてお礼を申し上げます。

今年度の審議会におきましては、当初は6月に第1回、そしてこの8月に第2回を開催する予定でしたが、御承知のとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止等の関係で第1回を見送りとさせていただきます。現在も第2波と言われる中で、少し感染者数が減少傾向にあるのかもしれませんが、まだ予断を許さない状況でございます。

今日は第1回と第2回の議題内容をまとめた形で御審議をいただくこととなります。議題につきましては、(1)小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの進捗状況について、そして(2)第4次小牧市男女共同参画基本計画（ハーモニーⅣ）策定に基づく市民意識調査の内容について御審議いただきます。

つきましては2回分の議題内容をお願いさせていただきますので、ボリュームも多めになっておりますが、限られた時間の中ではございますが忌憚のない御意見、御指導を賜れば幸いです。

簡単ではございますが、私からの御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

[恒川館長]

教育長、ありがとうございました。

続きまして、代田会長より御挨拶いただきます。

〔代田会長〕

改めまして、こんにちは。

今日は先ほど教育長からもお話がございましたが、本来なら2回で審議いただくものを1回で行い、しかもそれぞれ重要な議題になっております。1つ目は、ハーモニーⅢの進捗状況のチェック、もう一つが、第4次小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅣに向けての市民意識調査の内容精査になっております。

時間が1時間半と限られておりますので、私も円滑な議事進行に努めたいと思いますので、委員の皆さんにもどうぞよろしく御協力の方お願いいたします。

〔恒川館長〕

ありがとうございました。

それでは議題の方に入らせていただきます。

小牧市男女共同参画審議会規則第2条の規定によりまして、代田会長に取り回しをお願いいたします。

3 議事

(1) 小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況（平成31年度実績）について

〔代田会長〕

それでは、議題（1）小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況（平成31年度実績）についてです。まず、事務局の方から御説明をお願いいたします。

〔恒川館長〕

事務局の方から御説明させていただきます。

小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの進捗状況につきまして、お手元の資料を基に順に御報告させていただきます。資料は、1-①、1-②、1-③がございます。

ハーモニーⅢに基づき、各課における平成31年度の事業実績等推進状況につきまして、今年度早々、担当課に照会し、その回答をまとめたものが1-①になります。

ではこの資料1-①につきまして、御説明させていただきます。

ハーモニーⅢで掲げる4つの基本目標のうち、基本目標Ⅰ「あらゆる分野への男女共同参画の推進」が1ページから4ページまで、基本目標Ⅱ「男女が働きやすい環境の実現」

が4ページから11ページまで、基本目標Ⅲ「男女共同参画社会の形成に向けた意識改革・教育の推進」が11ページから18ページまで、基本目標Ⅳ「安心して暮らせる環境づくり」が18ページから26ページとなります。この4つの基本目標を達成するために平成31年度に各課で行った事業の実績と、令和2年度に実施予定の事業が記載されています。

次に、資料1-②重点目標管理シートであります。こちらは担当課にて重点目標とした事業を抜粋し、それをシートごとにまとめたものになります。重点目標達成に向けた年度ごとの取組内容、数値目標、また各年度末時点での実績値が記載されております。

続いて、資料1-③です。こちらは、資料1-①の中から女性活躍推進計画に該当する施策を抜粋した資料でありまして、記載内容は同じものとなっております。

なお、この進捗状況報告につきましては、資料送付のみの会議となりましたが、男女共同参画推進会議専門部会にて、また6月23日に実施いたしました男女共同参画推進会議にて、各委員に報告済みとなっております。

以上、議題(1)の説明を終わります。

[代田会長]

ありがとうございます。

資料が3つございますが、基本的には1-①を基に進めていきたいと思っております。

必要であれば、資料2、3についてもいろいろ御意見いただければと思います。

まず基本目標Ⅰ「あらゆる分野への男女共同参画の推進」ページ数でいうと4ページまでのところで、御意見、御質問等ありましたら御発言ください。

[近藤委員]

全体的に、基本目標とはどのレベルを想定しておられるか。

例えば3ページ、消防総務課が50%と書いてありますが、この50%とは女性が50%いればよいということなのか、実際にこの事業を実施する上で適正力等を踏まえて50%と言っているのか、というところをお聞きしたいです。あまりにも漠然とした数字なので気になりました。

[山下係長]

申し訳ありません、当時その目標値を決めた経緯は即答できかねます。

[伊熊委員]

私も、目標の決め方はそのときに参加していないので詳細は分かりませんが、基本的に

男女共同参画とは、男性も女性も同じということが望ましいということで50%に決められたのではなかろうかと。

ですが言われるように、本当に50%が良いのかと言われると少し違うのかなという感じもします。必要に応じた人数体制で防災ができるのかという観点からだとすると、男性がやるべきこと、女性がやるべきこと、両方でやるべきことというのは防災の中にはたくさんありますので、細部にわたっての対策という観点から目標値を立てるやり方もあるのかなと思います。

[代田会長]

これは参加率ですので、半分ずつ参加するということが目標となっているかと思いますが、確かにもう少し細かく見ていく必要もあるかと思います。

[代田会長]

その他何かございますか。

[前田委員]

1 ページ目下部、自治会支援室の施策「地域の中における女性の委員」の課題等について、登用率について具体的な目標値を設定するのは難しいと記載されていますが、これはよく分かる部分があり、「役員」となっているから女性が入っていないとも言えないし、いろいろな場面で任されているところもあると思います。

ただ、全体的にどのような状況なのかということ把握しておくことが必要であると思ったときに、数値ではなくどのような形で把握していくかという部分をお聞きしたいです。

[長縄自治会支援室長]

男女共同参画の政策につきましては市の施策でございますので、私たちの目標としましても当然推進していくということに変わりはありません。

自治会組織とは、当然、自主的な団体というところがございますので、一言で「役員」と言いましても、組織の構成はばらばらです。そのため、私どもで今務めていることは、例えば民生委員や、交通委員、環境保全委員等、区長さんから推薦をいただいて委嘱をしている方々には女性登用についてお願いをさせていただいております。それが役員で良いのかどうかというところはありますが、この部分の現状把握はさせていただく方向で考えておりますので、今回の実績報告において数値的なものを、資料のとおりお示しさせていただきました。

[前田委員]

ありがとうございました。

[代田会長]

その他何かありますか。

[松田委員]

1 ページ中段、まなび創造館の部分ですが名工大の女子学生の皆さんによるキッズラボを開催したとあります。

これを読んで良いなと思ったのは、女性の技術者のロールモデルを実感的に意識できる、また見ることができるという部分が、講座の内容だけではなくすごく良いことだなと思いました。

[代田会長]

では続いて、4 ページから11 ページまでの「Ⅱ男女が働きやすい環境の実現」に移ります。いかがでしょうか。

[矢野委員]

「仕事と生活の調和」という部分で、保育園の待機児童が0人という実績が書いてありますが、これはいつの時点で上げているのでしょうか。

私どもの会社の者も実際に育児休業を取る者が多いのですが、実際に1歳では保育園には入れないということで、職場復帰をする職員はほぼいません。次に、1歳6か月まで育児休業を認められていますが、それでも入れなくて、新年度の4月にやっと入れるという感じになっています。

この現状から考えると、待機児童がいると思ってしまうのですが、どうでしょうか。

[山下係長]

申し訳ありません、担当課の方に確認させていただきます。

0人と言えど実際はどのような状況なのかも含めまして、後ほど御回答させていただきます。

[矢野委員]

お願いします。

〔代田会長〕

その他よろしいですか。

〔伊熊委員〕

広聴広報課の部分ですが、目標値が94件に対し、平成31年度の実績値が65件と低いということと、一昨年度前の実績93件に対してさらに減っていることには何か理由があるのでしょうか。

〔山下係長〕

11ページ中段のⅢ－1－①「広報・啓発活動の充実」の部分です。こちらにつきまして、黄色枠の課題の部分にもありますが、当時の担当者によって男女共同参画に関わる広報記事であるかどうかという見分けの判断基準が明確になっていない部分があるため、前年と同じように数値が取れていないという現状があります。

ただ、男女共同参画に関する記事が削られたために、前年と比べて減少しているわけではなく、掲載件数を今回の担当者が数えたところ、30件弱減ってしまったという報告になっております。

また、決して啓発活動を弱めているということではありませんし、中日新聞の女性活躍紹介コーナーなどへの紹介は積極的に出しているところです。広報広聴課には今後できるだけ基準を固めて数えるようにと依頼していきます。

〔代田会長〕

基準がぶれると、数字の信憑性が崩れてしまいますので、今後はどういう要素が入ったらカウントする、もしくはしないかを、固めていただければと思います。

では続いて「Ⅲ男女共同参画社会の形成に向けた意識改革・教育の推進」に参りたいと思います。

いかがでしょうか。

〔籠橋委員〕

12ページ上段、まなび創造館の「H31年度実績評価・R2年度の課題等」の部分です。男女共同参画意識の割合が、年代別に低いのが30歳代、40歳代であり、多世代交流プラザへ来館する子育て世代に意識啓発を重点的に行う。とありますが、これ以外の方法は何か考えていらっしゃいますか。

[山下係長]

今年度は思わぬコロナ禍で、講座の開催が、8月に入りやっとできるようになったところでした。

昨年度の審議会で御報告をさせていただきましたとおり、講座事業において30歳代、40歳代をターゲットとし、親子の講座や働いている方への講座などを企画しております。また女性に関しては、自分でお仕事を何か立ち上げたいという起業についての支援講座も考えております。

[籠橋委員]

30歳代、40歳代の親世代に伝えようと思うと、なかなか難しいところがあると思いますが、1年に1回小・中学校の配付物の中に入れるなど、そういったことは考えておりますか。

[山下係長]

親子の家事講座を企画しておりますが、その際、案内チラシを小学生2学年宛てに全員配付をさせていただきました。

また、スポーツセンターで開催している親子講座の参加者に、こちらの講座案内や男女共同参画啓発のチラシを配付させていただいてきました。

[籠橋委員]

分かりました、ありがとうございます。

[伊熊委員]

僕らの防災活動についても、新型コロナの関係で今ほとんど止まっています。

ところが、最近リモート会議やリモート講座がすごく増えてきています。今度名古屋大学で防災・減災会議オンライン講座を開催するにあたり、ぜひ参加してください、定員250人で先着順です、しかも無料です、と案内が来ると、参加してみようかと思ってしまう。朝から晩までリモートであるとはいえ、やはりそういう仕掛けが必要だと思います。

企画する側はすごくエネルギーを使うと思いますが、これからはこういうオンラインペースで行うということに力を入れていく必要があるのではないかと思います。

〔代田会長〕

まなび創造館に限らず、市役所としてもオンライン化というのは今後ますます増えていくのだろうと思います。

〔廣瀬委員〕

オンラインという部分ですが、このコロナ禍の中、市民活動において2月下旬あたりからいち早く、オンライン講座を積極的に実施する形で、まなび創造館と一緒に企画しています。ただ、それにはWi-Fi環境が整っていないと、データ量をかなり使用してしまうという問題など、企画するにしても難しい部分がたくさんあるということに気づいているところです。

この館自体も、実際Wi-Fiが使える部屋と使えない部屋があります。男女共同参画ということでいろいろな方々に参加していただきたいので、オンラインができない方も取り残さないで参加していただくために、環境整備できればと思います。

ただ世代によってはオンラインになじめない方や、実際にライブで話を聞きたいという人たちのニーズにも応える必要があるため、オンライン一本というのはまだ難しいと思うので、感染症対策を万全に行ったうえで、少規模の対面式講座は維持していく必要があると思います。対面式もやりながら、新しくオンラインも取り入れていくというハイブリット方式を考えていくということです。

ただ、オンラインが完成度の高いものでなくてもよいと思っています。急遽こういう状況だからオンラインをやってみます、というレベルで。ただそう言われてもやり方が分からない部分があるので、今、男女共同参画でも「基本のキ」の講座が企画されていますが、同様にオンラインでの「基本のキ」を促す講座もあれば良いなと思います。

Wi-Fi化は市民の方々に今後求められていく部分なので、企画していく側としてもWi-Fi化はやはり必要だと思います。オンラインのやり方の講座や、またそれに慣れてきた方がさらに、オンラインだとこんなことも勉強できるという選択肢がどんどん広がっていくと、コロナ禍でもよりよい形で男女共同参画を広げていけますし、私たちが今までに経験したことがないこともやれるようになっていくだろうと関係部署の方々とお話をしながら感じています

〔恒川館長〕

今廣瀬委員からお話いただきましたが、これがなかなかすぐできるというものではなく、おっしゃられるとおりに施設内のWi-Fi環境であったり、コロナ禍における収容能力であったりと、問題が多々ございます。100人集めるには普通の会議室では当然できま

せんので、あさひホールでやろうかとなると、Wi-Fiはありません。現在まなび創造館でWi-Fi環境で講座をやろうとすると、4F学習室しかありません。

また我々もそうですが、Zoomの講座といってもやはり不慣れですので、こちらから開くというより我々が受講するというスタンスが基本的だと思っています。ですがこうやって我々がマスクをしているのと同様に、慣れていかなきゃいけない部分もあるので、今は廣瀬委員と協力しながらやっていきたいと考えているところであります。

[代田会長]

これからは男女共同参画啓発の選択肢の一つとして、大事になってくると思います。私もZoomとか今は使いますが、最初は必死でした。

それでもやはり対面の良さというのがあります。なかなかオンラインでは伝え切れない部分もありますので、そこをうまく組み合わせていくことが大事だと思います。

[武藤委員]

私の大学でも、授業も会議も全てオンラインになっています。

さきほど防災の講座を一日中Zoomで行うという話がありましたが、男女共同参画で考えると、お昼御飯を子供に用意しながら、一日中家で講座が受けられるというのはすごくありがたいと思います。

そういう意味でも対面は対面で、オンラインはオンラインでという形で講座などを開いていただけると、もっといろいろな方が参加していただけるとと思います。

[代田会長]

その他で何かありますか。

[伊熊委員]

14ページの文化・スポーツ課ですが、事業費の予算が一般事務費で696万1,000円という数字に対して、実績が文化財団の補助事業費で99万となっています。予算がこれだけに対して、なぜ99万円で済んだのか教えてください。

[山下係長]

文化・スポーツ課へ確認し、また後日回答させていただきます。申し訳ありません。

[代田会長]

では最後「IV安心して暮らせる環境づくり」19ページ以降になりますが、いかがでしょうか。

〔廣瀬委員〕

全てに言えることだと思いますが、講座など広報に関するいろいろな分野において、申込みの入り口として、案内チラシを各家庭へ配付したり、各施設に配置したりという形で、来館していただいて気になった方がチラシを持っていくという周知方法だったと思います。

今小牧市にはすごく便利なLINEの公式アカウントがあります。例えばこのLINEに登録していると、男女共同参画に関する講座などの案内が通知され、受け取る側の方が面白そうだと思えば気軽に申込みができるといった仕組みがあると良いなと思います。LINEに限らず、フェイスブックでも。

会館などに置いてある案内チラシは、ピンクの紙に黒で印刷してありますが、ホームページだととてもカラフルで、視覚的にも興味をそそるものだったりします。原本はとてもきれいに作られているのに、会館に来て実際見てみると味気ない感じになってしまっているというところを見ると、何だかもったいない気がします。

小牧市にはSNSのツールがあるので、そういった部分を発信していくことはそこまで大変なことではないかなと思います。うちの活動の講座でもそうですが、何枚もチラシを刷ったとしても、チラシを見て来ましたという人はほとんどおらず、結局はLINEやフェイスブック、直接メールなどで申し込むという方がとても多いです。

このようなオンラインのツールをうまく使って啓発していくことが、より有益かつ有効な方法ではないかと思いました。

〔山下係長〕

御意見ありがとうございます。

今年は我々もフェイスブックにチャレンジしており、6月は毎日更新を目標に活動しておりました。

御意見いただきましたように、LINE等を使いながら、30歳代、40歳代を特にターゲットにしながら活動していきたいと思います。

〔松田委員〕

24ページのまなび創造館ですが、「デートDV手帳内容を見直し、配付方法を検討する。」と「平成31年度実績評価・令和2年度の課題等」にあります。この一文について、手帳内容を具体的にどのように見直しされるか、また配付方法の検討はどのようにお考え

なのかお聞きしたいです。

[山下係長]

昨年度は、表題が「デートDV手帳」であったので、まず手に取りにくいであろうということで、「私が私であるために」というタイトルにし、少しでも中・高校生が手に取りやすいデザインに変更をいたしました。これを市内外高校生に配付したところです。

今年度は夏休み前に、昨年度同様市内外の高校生に配付し、その他に、現段階では市民病院内の女性用トイレや、御協力いただける民間企業を募りながら設置場所を増やせるように配付方法を検討しております。

[代田会長]

1,191人もの方が手にしたのですか。

[山下係長]

こちらからプッシュ型でお渡ししたという形です。

[籠橋委員]

1つ提案させてください。デートDV手帳だけではなく、それに付随するDVDや出前講座等は考えておられますか。

実は高校生の息子が、一、二か月前にこのデートDV手帳をもらってきたのですが、僕は関係ないよねと言っておりました。なぜそう思うのか聞くと、先生から説明は受けたようですが、手帳の印象も薄く、中の内容を見てもピンとこなかったようです。クラスの他の男の子たちも自分に関係ないと言ってほとんど見ていなかったとか。手帳だけでなくプラスアルファの理解を促す何かがあった方がよいのではないかと思います。せっかく一生懸命配付してくださっても、受け取る側が理解していなければもったいないので、提案致しました。

[松田委員]

一つ補足で、私も高校生向けに人権講座の一環で、デートDVについて講座しました。その際に今お話しにありましたようにDVDも使いましたが、やはり女性だけではなく男性にも知ってもらおうということは、とても大事なことだと思いました。

(2) 第4次小牧市男女共同参画基本計画（ハーモニーⅣ）策定に基づく市民意識調査の

内容について

[代田会長]

続いて2つ目の議題、第4次小牧市男女共同参画基本計画（ハーモニーⅣ）策定に基づく市民意識調査の内容に入ります。資料は2-①～④までです。

まず2-①、こちらは市民に対してのアンケート内容ですが、何か御意見等ございましたら御発言ください。

[松田委員]

これは全体にも関わってきますが、一般用の2ページ、問9の設問です。

「あなたは、夫は外で働いて妻は家庭を守る方がよいといった固定的な性別役割分担について見直すべきだと思いますか」ですが、今までは「どう思いますか」という質問でした。これを修正した理由について伺いたいと思います。

[山下係長]

こちらは、資料2-⑤各種アンケート内容修正一覧でも御説明させていただいておりますが、男女共同参画推進会議において、こちら質問の仕方の方が答えやすいという委員からの修正案が出され、その後どちらが良いかを審議し、結果市役所としてこちらの回答とさせていただきます。

どちらが適切であるかは、この会においても御意見いただければと思います。

[代田会長]

これだとバイアスがかかるということですか。

[松田委員]

「反対」ということも「基本的には賛成だが少し変えるべき」ということも「見直すべきだ」という形になり、内容が違ってくる、見直すべきだという意見の中でもいろいろ答え方が出てくるのではないかと思います。

[前田委員]

この設問を見たときに、「見直すべきだ」ということは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る方が良い」という考えが大前提で質問しているように私は取りました。

今は夫婦の間でも共働きで働いている方もいれば、そうでない方もおりいろいろですの

で、どちらが良いということはないと思います。ですので、このような状況下においてはやはり「見直すべきだ」ではなく「どう思いますか」の方が私は良いなと思いました。

[廣瀬委員]

主観がないような形で問いかける設問にした方が良いと思います。確かに「見直す」とすると表現としては誘導している感じがうかがえます。

[代田会長]

この設問については、審議会としては以前の形の問いにしたいということをお願いできますか。

[山下係長]

分かりました。ありがとうございます。

[廣瀬委員]

小学5年生用、中学2年生用のアンケートも「見直すべき」になっています。逆に「見直すべきなのかな」と考えてしまうかもしれません。

[代田会長]

今の「見直すべきか」という設問は、一般用ですと2ページ問9、小学5年生用ですと5ページの間12、中学2年生用ですと5ページ問13にそれぞれあります。これらは併わせて表現を変えましょう。

[廣瀬委員]

一つ意見として、小学生、中学生用についてですが、答える当事者としてまず思い浮かべるのは、自分のお父さんだったりお母さんだったりすると思います。良いなと思う人を思い浮かべながら答えるとなったときに、何か自分の主観で答えても良いような設問、例えば自分のお父さん、お母さんをイメージすると同時に、そこに主観的なことを書き添える自由表現欄のようなものがあったとしても良いのではないかと思います。多様な考え方を把握することができたりして、情報収集にもつながるのではないのでしょうか。

[代田会長]

確かに、一般用は最後に自由記述欄がついていますが、小・中学校用はついていないで

すね。

[廣瀬委員]

「あなたが身近ですてきだなと思う大人は誰ですか」など、そこにお父さんやお母さんといった回答があると、子どもたちがイメージしている大人が浮かび上がってくるのではないかと思います。

小学5年生や中学2年生といった、多感なお子さん達に質問するので、信頼できる大人というか、なりたいと思われる大人をそこにイメージしてアウトプットしてもらうことはとても意味のあることではないかと思います。

[代田会長]

前回の意識調査との比較がやはり重要になります。ただ、大事な項目については経年変化を見るためには変えない方が良いという部分と、時代が変わってきているので新しいニーズに対応していく部分とがあって、それらをどういう形でつかむのかというのはなかなか難しいと思います。

[伊熊委員]

自由記入欄を設けるというやり方もあると思いますが、集計が確実に大変になります。次のアンケートの課題にしてみてもはどうでしょうか。

[代田会長]

一般用では「男女共同参画についてどう思いますか。」とありますし、やはり生の声を拾うことは必要という見方もあります。

[廣瀬委員]

アンケートを最後まで答えたあとに何か思い浮かび上がる気持ちみたいなものがあるのではないと思います。そこに何か男女共同参画にリンクする部分があるのではないのでしょうか。

[伊藤委員]

資料2-②の10ページ、問30の下にあるパタニティーハラスメントについての説明「育児を利用する休暇や時短勤務を希望する男性に対する嫌がらせ」とありますが、厚生労働省はパタニティーハラスメントの定義として、男女問わず育児介護休業を取っている方に

対するハラスメントをパタニティーハラスメントとしていると思いますが、なぜ男性と限定されたのかをお伺いしたいです。

厚労省の言葉の定義としては、育児介護休業を取る労働者に対する嫌がらせとなっているはずなので、特に男性限定とはなっていないと思います。

[山下係長]

分かりました。ありがとうございます。一度お調べして後ほど回答させていただきます。

[松田委員]

小学5年生用の6ページ「6. 男女共同参画に関する用語について」の「ア 男女共同」は、「男女共同参画」か何かの間違いでしょうか。

[廣瀬委員]

中学2年生用だと、「男女共同参画社会基本法」となっています。

[廣瀬委員]

小学5年生の認識だと、社会というものの概念というのが少し分かっていて、ただ「男女共同」までだと何を聞かれているのか分からないかと思いますので、「男女共同参画に関する用語について」と書いてあることから、「参画」にするのか「参画社会」までとするかははっきりさせた方が良くかと思えます。

[代田会長]

一般用とも合わせる必要があり、一般用では「男女共同参画」となっています。

また数値目標等で男女共同参画という言葉の理解について出さなければいけなかったと思いますので、ここは「男女共同参画」ですね。小学生にとっては少し難しいかもしれませんが、「男女共同参画」にそろえましょう。

読み仮名はつけなくてもよろしいですか。小学校5年生、読めますか。

[前田委員]

言葉としては難しいので、つけておけば親切かと思えます。

[代田会長]

では、こちらに読み仮名もお願いします。

[籠橋委員]

資料2-②事業所用3ページの間6、過去10年間の女性従業員の休暇について聞いていますが、男性には聞かないのでしょうか。

2ページの間2は女性・男性両方に聞いていて、他の質問も大体は男性にも聞いています。前回から状況は随分変わってきていると思いますので、この質問も男性に聞いてよいのではないのでしょうか。

[代田会長]

これは男性も入れた方が良いでしょう。

ア、イの数は恐らく少ないと思いますが、ウ、エ、オについては恐らく男性も増えていると思います。よろしいでしょうか。

[山下係長]

分かりました。追加いたします。

[松田委員]

細かいことですが、イに関しては出産後という言葉そのまま使うと男性にとっては違和感がありますので、「子供が生まれた後も」というような形で表現を検討してください。

[籠橋委員]

この事業所アンケート以外のアンケートでは、「男性」・「女性」・「年代」を聞いていますが、事業所用は全く聞いていません。

答える方が管理職と事務員では、設問によっては答えが違ってくると思いますが、事業所用では聞かないのでしょうか。

[代田会長]

「総務・人事担当の人にご記入を」と表紙には書いてあります。

[松田委員]

担当の方が答えたとしても、外部に出すものですので上の方のチェックが恐らく入ると思います。ですので、事業所としての回答となりますので、個人の回答とは違ってくるの

でないでしょうか。

〔伊熊委員〕

この回答書は事業所の名前が入って回収されるのですか。

〔山下係長〕

いえ、入らない形で回収します。

〔伊熊委員〕

事業所の選び方はどうされるのですか。ランダムに選ぶのですか。

〔山下係長〕

ランダム抽出です。

〔伊熊委員〕

小学校・中学校は全員ですよ。

〔山下係長〕

はい。小・中学校は全員です。事業所用は、市内の登録事業所1万件の中から抽出します。

〔伊藤委員〕

5ページの問12、「育児・介護休業制度の導入」や「子の看護休暇制度の導入」はそもそも実施していないとおかしいので、当然「実施している」に丸がつくはずですが。仮にここが「実施予定なし」や「今後実施予定」と回答する事業所に対して、市から何か指導みたいなことをしていく予定ですか。

〔山下係長〕

指導の予定はありません。

〔代田会長〕

対象事業所の規模によっては、実施していない可能性があるかもしれません。

[山下係長]

先ほどお話いただきました、小学5年生用の6ページ問18のアですが、前回のアンケートが「男女平等」という表現になっておりました。

[代田会長]

「男女共同参画」と「男女平等」は同じものですし、言葉としても完結していますので、「男女平等」の方が良いと思います。

[山下係長]

では、「男女平等」で、振り仮名もつけるという形にさせていただきます。

[廣瀬委員]

事業所用の10ページ問29ですが、ハラスメントの種類として、「モラルハラスメント」を載せる予定はないのでしょうか。

パワハラ、セクハラ、マタハラあたりは大分浸透してきたと思います。

性に関係なく精神的苦痛を与える言動等をモラルハラスメントと表現をされますが、私の身近でも、職場においてモラルハラスメントというワードがよく出てきます。

「上から強く言われて」というわけでもなく、性別に関する部分に特化してでもなく、程度としては低いですが、同僚や職場の関係者から継続的にハラスメントを受けているというような場合に、該当する選択肢がここにはないと思いました。

事業所に聞いていますので、正直に回答するかどうかは分かりませんが、そういったハラスメントもあるということ、事業所として把握しているのかどうかを聞いておいた方が良いと思いました。

[伊藤委員]

他の種類のアンケートにはモラルハラスメントを載せても良いかと思います。

パワハラ、セクハラ、マタハラ、パタハラは、法律上の定義や、厚生労働省の規定、規約の中に定義がありますが、「モラルハラスメント」は労働関係法上おそらく定義がないので、こういった事業所向けのアンケートには載せない方が良いかと思います。

[代田会長]

モラルハラスメントの定義がないということですね。

〔廣瀬委員〕

ここに該当しないハラスメントを受けておられる方の把握は、特段必要ないのだろうかと思ったので、意見させていただきました。

〔代田会長〕

まだ行政の指導がない概念だと、事業所に対する指導もなかなかできないだろうと思いますので、把握もできていないのかもしれませんが。

今回はモラルハラスメントを入れない形としてよろしいですか。

〔廣瀬委員〕

はい。

〔武藤委員〕

事業所用アンケート、表紙に回答時間に10分と書いてありますが、結構調べないとこの時間内では書けないと思います。

〔山下係長〕

変更いたします。

〔代田会長〕

10分の根拠は何ですか。

〔山下係長〕

前回のおりとしております。

〔代田会長〕

分かりました。他はよろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

〔代田会長〕

本日は委員の皆さん、たくさんのご意見ありがとうございました。

出されました意見については、事務局の方で整理し取りまとめていただいて、後ほど委

員の皆さんにお渡しください。よろしくお願いいたします。

では、事務局の方にお返しします。

〔恒川館長〕

ありがとうございました。

代田委員におかれましても、会議のスムーズな進行、誠にありがとうございました。

最後になりましたが、次回以降の男女共同参画審議会の日程につきまして、皆様の方に事前に11月と2月の予定をお聞きしております。そちらがまとまり次第、また御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、これもちまして、令和2年度第1回小牧市男女共同参画審議会を終了します。
ありがとうございました。